授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅲ（分娩期の助産過程の展開と助産ケア）　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	工藤 優子	実務経験の有無	有	開講期	4 年前期
科目ナンバリング	N5-4021m				

【授業の主題】

生理的現象である分娩を介助することは、母児の安全を保障すると同時に産婦が自らの潜在能力に気付き、分娩に対する満足度が高くなるように支援していくことである。このことは、直接的に次世代の育成につながる重要な意味を持つ。分娩介助にあたり、生命に対する畏敬の念と、責任の重さを忘れずに母児の安全のために常に最善の支援技術が提供できるように準備しておく必要がある。本科目では出生を介助する援助技術を学び、分娩介助技術の基本と出生直後の新生児のケアの基礎的な知識と技術を習得する。

【到達目標】

1. 分娩各期の助産過程と助産ケアを理解する。
2. 分娩の進行状態をアセスメントし分娩予測ができる。
3. 出生直後の新生児のアセスメントとケアについて理解する。
4. 正常分娩の分娩介助法を理解する。

【授業計画・内容】

第 1 回　分娩期の助産過程①
第 2 回　分娩期の助産過程②
第 3 回　分娩期の助産過程③
第 4 回　分娩期の助産過程④
第 5 回　分娩期の助産過程⑤
第 6 回　分娩期の助産過程⑥
第 7 回　分娩介助法
第 8 回　分娩介助の実際①
第 9 回　分娩介助の実際②
第 10 回　分娩介助の実際③
第 11 回　分娩介助の実際④
第 12 回　分娩介助の実際⑤
第 13 回　分娩介助の実際⑥
第 14 回　ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援①
第 15 回　ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援②

【授業実施方法】

講義および演習

【事前・事後学習】

講義内容に関する事前学習を毎回 30 分以上行うこと。
講義内容を踏まえ、復習を毎回 30 分以上行うこと。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、女性の健康支援

【教科書等】

助産学講座 7　助産診断・技術学Ⅱ[2]　分娩期・産褥期　　医学書院
助産学講座 8　助産診断・技術学Ⅱ[3]　新生時期・乳幼児期　医学書院

【参考文献】

授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

試験 70%、演習及び実技試験・レポート 30%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

助産師としての実務経験を踏まえ、事例などを提示し、講義内容の理解が深まるように工夫している

【学生へのメッセージ】

助産技術習得のために必要な知識と技術です。積極的に自己学習を積み重ね、確実に身につけましょう。